

令和元年度 横浜市立日吉南小学校 「交通バリアフリー教室」の実施報告

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。日吉南小学校では、東急バスと連携し実施しました。
- 日吉南小学校は、東急東横線 日吉駅、綱島駅、横浜市営地下鉄線 日吉本町駅を最寄り駅とする地域です。最寄り駅までバスを利用するほか、いろんな場所へ行くときなどバスを利用している子どももいるようです。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室では、横浜市都市整備局が担当する「バスのバリアフリー」に関する座学とともに、東急バスが実際のバス車両等を用いた体験授業を行いました。
- 横浜市都市整備局は、座学において、バスのバリアフリーの現状や、モビリティマネジメントの大切さ等、バリアフリーを始め、バスに関する様々な“知識”を伝えました。
- 東急バスは、実際の“体験”を通じて子どもたちに生きた知識として根付くよう、バス車両を用いた車いす利用体験・介助体験と視覚障害者への介助体験を行いました。

交通バリアフリー教室について

【日時】 令和元年 9月10日(火)
1~4校時(8:50~12:15)

【対象】 日吉南小学校
4年生 1~4組(145名)

【内容】 ①バスのバリアフリーに関する座学
②バスを用いた車いす利用体験・介助体験
③視覚障害者への介助体験
→クラスごとに分かれて実施



バリアフリーに関する座学



視覚障害者への介助説明



車いす利用・介助体験



体験事業の開始挨拶



視覚障害者への介助体験



車いす利用・介助体験

2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、「もっと知ってほしい バスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできた、バスのバリアフリーの現状を中心に授業を行いました。
- その中で、バスの利用者が減少していくと「バスが将来、無くなってしまう」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- 子どもたちは日吉駅に行くときは歩いていくことも多いようですが、塾や習い事など、ブルーラインを使う際には、新羽駅へバスでお出かけすることもあります。
- 成長していく過程の中で「便利なクルマに頼りすぎず、今と同じように、バスで行ける所はバスで行くこと」を日頃から心掛け、家族や友人などと少しずつ実践してほしいことを伝えました。
- 将来的にバス事業が継続していくためにも、「行き先や状況に応じて、バスを上手に使うって暮らす」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

おわりに

- 今回の交通バリアフリー教室を経験して、車いすで移動することの大変さとともに、移動の介助の難しさ、大変さを肌にした子どもたちがたくさんいました。
- 子どもたちがバスへの関心をもち、これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートするきっかけとなることを期待します。
- 運転席に座ったり、客席に座ったりして、東急バスの職員や運転士さんと積極的に交流するなど、バリアフリーの事だけでなく、バスの様々なことを学んでいました。
- 授業中は、職員に多くの質問が寄せられました。子どもたち自身もいつも以上にバスを身近に感じてくれた1日になったと思います。
- 休み時間には他学年の子どもたちがバスの周りに集まり、バスや授業に興味深そうに見ていました。

座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:もっと知ってほしい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



前方昇降口で視覚障害者への介助体験、後方昇降口で車いす利用・介助体験を実施している状況。



車内での車いす利用・介助の体験状況。



休み時間に入って、他学年の子どもたちがバスを見ている様子。